

社会と共によりよい未来へ

—ものづくりの力で子どもの未来と豊かな社会に貢献—

学びとエンターテインメントを融合し、働くことの楽しさを子どもたちに伝える職業・社会体験施設「キッズニア」。ここでは、その創業者であるハビエル・ロペス氏と吉田忠裕会長CEOの対談をご紹介します。

共に、米国ノースウェスタン大学経営大学院（ケロッグ）にて現代マーケティングの父、フィリップ・コトラー教授^{※1}の薫陶を受けた2人は、ビジネスを通じた社会貢献と、企業のあるべき姿について互いに意見を交わしました。



子どもの創造的な感性は 自ら感じ考えることから

吉田 アメリカに留学中、私はコトラー教授の考えと、当社の精神「善の巡環」に近いものを感じ、常に親近感を覚えていました。シンプルに言えば、「ビジネスは社会の価値に寄り添うべきだ」と教授は考えていらしかった。私も同感です。キッズニアにも同様の理念を感じますが、事業のインスピレーションはどのように得られたのでしょうか。

ロペス氏 メキシコの企業でベンチャー支援投資を担当していた時期に、友人から「子ども向けのデイケア分野で新規事業を立ち上げたい」との相談をうけました。その中にロールプレイングによる企画があり、子どもはロールプレイングを通してさまざまなことを学べる、とアドバイスした時のアイデアが今につながっています。

吉田 学びとエンターテインメントを融合させる発想が、大変魅力的ですね。

ロペス氏 ありがとうございます。楽しさは子どもにとって最高のモチベーションとなりますからね。楽しむことで学びのスピードが上がりますし、体験の価値も高まります。一方で子どもの趣向は刻々と変化するので、日々の分析も欠かせません。最近では、女の子の間で獣医師の人気が高まってきたので、新しくプログラムに加えました。男の子の場合はもっとシンプルで、「サッカー選手になりたい」というような声が多いようです。

吉田 確かにスポーツも、子どもの成長には欠かせませんからね。実は、当社は1980年から継続して「全日本少年サッカー大会」^{※2}に特別協賛しています。スポーツには心身を鍛える意味もありますが、「どう自分を高めるか」を自発的に考えることにこそ、私は大きな価値があると考えています。サッカーにおいても自ら考え、ある種のクリエイティブな感性を発揮できた時に伸びるケースが多いと聞いています。

ロペス氏 よくわかります。キッズニアが重視しているのも、自ら感じ自ら考えて選択することですから。なので、親の皆さんも多様な選択を見て驚き、大いに楽しんでいただきたい。幼児期に発見した志向は、将来にわたる財産となります。私どもは、家庭や学校でカバーできない部分を、効果的に補完できればと考えています。選択肢を増やすことで、子どもたちの可能性を広げていきたいのです。

技術の探究により 社会に貢献できる事業を

吉田 なるほど。私どもも2015年秋から「ものづくり館 by YKK」を本格始動しまして、さまざまなワークショップを展開しているんです。この施設から若い世代に向けて、ものづくりの楽しさを発信できればと考えています。また、当社は第5次中期経営ビジョンで「Technology Oriented Value Creation（技術に裏付けられた価値創造）」を掲げているのですが、私どもはどこまでいっても、ものづくりの会社です。



キッズニア東京「ファスナーウィーク」にて

キッズニア創業者/CEO

ハビエル・ロペス (Xavier López) 氏

1964年メキシコシティ生まれ。メキシコのアナワク大学にて経営学部を卒業後、IPADEビジネススクールにて修士号を、米国ノースウェスタン大学経営大学院（ケロッグ）にてMBAを取得。1997年にキッズニアを設立、ロールプレイングを通じたエンターテインメントと教育を組み合わせたコンセプトで成功を収める。キッズニアは社会への強い連帯感によってつくられ、獨創性、獨立心、責任感、結束といった価値に親しむ安全な場所をつくるというアイデアから生まれた。1999年メキシコシティにオープンし、現在19カ国・24カ所で展開している。

YKK株式会社 代表取締役会長CEO
YKK AP株式会社 代表取締役会長CEO

吉田 忠裕 (よしだ ただひろ)

1947年富山県生まれ。慶應義塾大学法学部卒業。1972年米国ノースウェスタン大学経営大学院（ケロッグ）修了、YKK株式会社（旧吉田工業株式会社）入社。1990年YKK AP株式会社 代表取締役社長。1993年YKK株式会社 代表取締役社長。2011年YKK株式会社/YKK AP株式会社 代表取締役会長CEO（現任）。

したがって技術の研鑽を通じて、「新しい価値」や「社会的課題の解決につながる価値」を生み出したい、という思いが強いんですね。

ロペス氏 素晴らしい考えです。ものづくりは、創業当初から私どものメインコンテンツでもありますね。御社には2014年からキッズニア東京に協賛いただいておりますが、提供して下さるコンテンツも、毎回大変好評です^{※3}。

吉田 ありがとうございます。ところで、キッズニアでは、現実の経済システムもきちんと表現されていますね。各々の職業体験が個別に存在するのではなく、コンパクトな経済の中で一つにつながっている発想に常々感心していました。

ロペス氏 それは、仕事の楽しさと共に、働いて対価を得ることの意味を伝えたいからなんです。銀行やクレジットカードはもちろん、報酬を社会貢献という形で還元する仕組みを導入したのもそのためです。

企業市民として 社会的課題の解決に取り組む

吉田 現在、世界19カ国で展開されているそうですが、各地のオペレーションはどうされているんですか。

ロペス氏 現地の企業と積極的にアライアンスを組んでいます。ロールプレイングそのものは本能に訴えるユニバーサルなアイデアなので、国境を越えても通用するものと確信しています。しかし文化や価値観は国ごとに異なりますので、コンテンツについては変える必要がある。キッズニアでは、グローバルに通用するコンセプトと、ローカルなパートナーシップを組み合わせることでこの課題に対応しています。重要なのは、その上でWin-Winな関係を、現地で築くことだと考えています。

吉田 親近感がわかりますね。私どももファスナー、スナップ・ボタンなどを中心とするファスニング事業と、窓・ドア、エクステリアを中心とするAP事業を展開していますが、商品自体

はそれぞれユニバーサルな性質も備えているものと捉えています。一方で、われわれは1959年から海外で事業展開していますが、赴任する社員には「土地っ子になれ」と声をかけてきたほどで、一貫して現地に根差したビジネスを実践してきました。つまり地域との共栄は、世界のどこにいても揺るがない私どもの普遍的なテーマなんです。同時にものづくりの力で社会的な課題を解決できればという思いも持っていますし、キッズニアとは根底にある精神に近いものを感じます。

ロペス氏 同感です。お話をうかがって、あらためてYKKグループは大きなインスピレーションを与えてくれる企業だなと感じています。私たちの世界展開はまだこれからなので、挑戦者として御社を追いかけたいですね。

吉田 私は「企業市民」という言葉をよく使うのですが、企業には社会の一員として、その繁栄を長期的な視野で支え続ける責務があります。つまり私どもは事業を通じて、社会的課題の解決に結びつく新しいモデルを世に示していかなければならない。業績も重要ですが、社会の未来につながるビジョンを持たなければ、企業の持続的発展は実現できないはず。本日は、素晴らしいご提言をありがとうございました。



※1 米国ノースウェスタン大学経営大学院（ケロッグ）教授フィリップ・コトラー氏。「マーケティングの神様」とも称される世界的権威。

※2 全国各地から約6,000チームが参加する大会。公益財団法人日本サッカー協会主催。

※3 YKKは、2014年から毎年キッズニア東京に期間限定協賛「ファスナーウィーク」で、未来を担う子どもたちにもものづくりの楽しさを伝えている。